

2025年5月19日

第21回安全工学会総会

会長挨拶

土橋 律

皆様こんにちは。会長を務めております土橋でございます。よろしくお願いいたします。

一時はコロナのパンデミックということで、なかなか集まるということができなかったのですが、こうして会場に集まっていただくのと同時に、オンラインも併用したハイブリッド開催というものが定着してきました。本日もハイブリッドを含め、お忙しいところ、大勢の皆様にご参加いただきましてありがとうございます。

さて、安全工学の扱うべき対象ですが、これは当然、社会の変化とともに変わっていくものと思います。

最近では風水害など非常に大きなものが起きており、地震も含めて激甚化した自然災害というものが重要課題となっています。そういった自然災害を発端とした産業災害(Natech)につきましては、安全工学会でもかねてから検討していますが、いよいよ重要性が増してきたと思われます。

また、カーボンニュートラルなどの新しい課題も出てきました。これも当然対応していかなければならない課題ですが、いろいろな新しいエネルギーシステムなどが導入され、あるいは新規物質を大量に使うことが想定され、その中でリスクの増大も懸念されるわけです。このような社会の変化とともに、安全工学の新たな課題、我々の出番は、今後いろいろあると考えております。

そういった中で、昨年12月の富山での安全工学研究発表会では、参加者が264名となり、非常に盛大に行うことができました。パネルディスカッション、ポスターセッションなどの新たな取り組みも始めさせていただきます。学会が活性化を続け発信力も増してきたものと考えております。

一方で、諸経費・物価が上がっている中で、同じサービスを提供しながら赤字を出さないというのは非常に困難な状況であることがわかってまいりました。申し訳ございませんが、次年度から会費を少し値上げすることを計画しております。値上げにより財政的な基盤を安定化させた中で、活動を充実させ、会員サービスを向上していくように努めてまいりたいと思っております。

我々は激動の時代の中にいると認識しております。今後とも頑張ってまいりますので、ぜひ会員の皆様にもご協力をお願いしたいと思います。

以上、挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いいたします。